

## ◇塩ビ壁紙のリサイクル小口回収システムを開発

（一般社団法人日本壁装協会）

去る3月14日に、塩ビリサイクル支援制度の支援事業として採用しました一般社団法人日本壁装協会の「広域認定制度を利用した塩ビ壁紙のリサイクル小口回収システムの開発及び実証試験」の成果報告会を、VECにて開催しました。



テーマの内容は、廃棄物処理法の広域認定制度を利用し、壁紙施工時に発生する塩ビ壁紙廃棄物（施工端材及び剥がし材）を回収し、リサイクルを拡大しようとするものです。本テーマは、技術開発ではなく、塩ビ壁紙廃棄物の回収からリサイクルへの仕組みを構築する初のシステム開発の案件でした。

塩ビ壁紙廃棄物のリサイクルは、製造時の規格外品や大規模工事現場等を除き、小口排出が多いことによりあまり進んでいないのが現状です。今後リフォームが増えることにより、壁紙廃棄物の小口排出が更に増加していくことが予想されます。本テーマはその小口排出の回収に焦点をあてたものです。そのため本開発において、広域認定制度を利用して業界での収集・運搬等を可能とする仕組みを構築し、その運営管理のためにモバイルとQRコードを利用したコンピュータシステムを開発しました。



壁紙回収袋とQRコード

具体的には、廃棄物を分別した袋にあらかじめ用意したQRコードを貼り、それをスマートフォン等で読み取り送信することにより、 manifests に代わる廃棄物の管理が行えるようになっています。実証試験においては、前述のITシステムが問題なく動作することを実証するとともに、現場の壁紙施工業者等にあまり負担を掛けることなく、従来と同等以下のコストで回収・リサイクルを行うことが可能であることが確認されました。回収された塩ビ壁紙廃棄物は猫砂等に再利用できることも確認されています。当初は関東圏での回収から始め、将来的には全国規模での回収を目指しています。

広域認定を申請中ですが、認可後すみやかに本リサイクル小口回収システムが稼働できるように、説明会を開催しシステム加入者の募集並びに教育を行う予定となっています。システムの運営・拡大には、廃棄物の適正処理並びにリサイクルの意義に対する関係者の理解が欠かせません。日本壁装協会を中心に壁紙に関連した業界間の協力により、困難な塩ビ壁紙廃棄物の小口回収が大きく進展し、塩ビのリサイクルの拡大に繋がることを期待しています。

（参照：[PVC News No.94「リサイクルの現場から」](#)）